

# PWMマーケット・レビュー

2016/7/11

為替	週足	週足バイアス	月足	月足バイアス	コメント
ドル・円	Short	-2	Short	-1	ドル売られ過ぎ、反転リスク有り要注意。日銀ドル買い介入にも要注意。7月よりドル上昇の可能性も残る。
ユーロ・ドル	Short	-5	Short	-5	長期ユーロ安トレンド。
ユーロ・円	Short	-5	Short	-5	長期ユーロ安トレンド。
ポンド・円	Short	-5	Short	-5	長期ポンド安トレンド。
豪ドル・円	Short	-5	Short	-5	長期豪ドル安トレンド。

商品	週足	週足バイアス	月足	月足バイアス	コメント
ゴールド	Neutral	0	Long	2	一見強そうであるが、ここからの一直線の上昇準備不足。
原油	Long	4	Long	5	上昇トレンド、上値目標60ドル。

債券	週足	週足バイアス	月足	月足バイアス	コメント
日本国債先物	Long	5	Long	5	長期上昇トレンド。上昇加速の可能性強し(=金利低下)。
米国債先物	Long	3	Long	3	米利上&債券反落リスク徐々に浮上の可能性、要注意。

株式	週足	週足バイアス	月足	月足バイアス	コメント
日経平均	Long	1	Long	1	長期上昇トレンド。下押しは限られよう。
米Dow	Long	5	Long	5	長期上昇トレンド。下押しは限られよう。
英FTSE	Long	5	Long	5	長期上昇トレンド。下押しは限られよう。
独DAX	Long	3	Long	3	長期上昇トレンド。下押しは限られよう。
中国CSI	Long	4	Long	4	長期上昇トレンド。下押しは限られよう。
インドNifty	Long	5	Long	5	長期上昇トレンド。下押しは限られよう。

週足: 1~2ヶ月見直し  
月足: 3~10ヶ月見直し

**Long** 買い推奨  
**Short** 売り推奨  
**Neutral** 中立

バイアス: トレンド強弱 (最大 = +5 ~ 最小 = -5)  
バイアス強弱変更時サイン (対前週比) = 水色背景  
**Long / Short** トレンド転換時 = 赤書き (Long >> Short, Short >> Long)

## テクニカル分析要約

資産クラス	トレンド・コメント	リスク要因
為替	ドル円は長期円安トレンド継続には102~107円維持必要。米国の政治的円高圧力&Risk Offと日銀ドル買い介入の狭間で方向感乏しい。	長期ドル上昇トレンド正念場。\$円以外の外貨投資は特に円高による替差損発生の可能性が大きく、要注意。 今後は高金利通貨投資も為替リスク大。
商品	金は1,050ドル近辺での長期底打ち、既に上昇トレンド入。原油も現水準で底値固め後、早晚金に続き上昇か?	原油底値は30\$で形成すると思われる。その後金に続き上昇期待も、上昇率は金が原油を上回る。 金か金鉱株を長期投資資産に加えるべき。
債券(先物)	利上げにより世界の資金は米国に集中しやすく、米長期金利に上昇圧力はかかってくる。万一株式再急落時は利下げの可能性もあるが、順当に考えれば2017年末に向け2%位の利上げがある。	米国以外の国では景気回復の遅れにより、金利上昇圧力がかかってくる偏った債券弱気は時期尚早でリスク有り要注意。株式情勢によっては、米金利も上昇しにくく、過度の債券相場弱気は禁物。
株式	2017年9月~12月頃まで世界的株式上昇サイクルの時間帯。	目先下落は6月末~7月10日で終了か。 但し9/1~10/15は大幅調整リスクに注意も、上昇は2017年春まで継続。

## 資産配分コメント

- 世界的な流動性供給過多相場となり、株式市場はまだ長期的買相場。但し目先最大調整:米ダウ=15,250&14,250、日経平均=14,500リスク消滅。(米ダウ=15,250ほぼ達成、日経平均=16,050達成)
- リスク・オン地合いの下、株式のオーバーウェイトは基本戦略。特に米国以外の債券も金融緩和が長引き基本は上昇地合い継続。
- 大きなリスクを取れるなら米ドル・円で為替ノーヘッジの外株&外債投資は為替益も期待出来よう。
- 外債建てユーロ圏投資(為替ノーヘッジ)は要注意。ユーロは今後3~4年間に対円で80~90円まで下落リスク(円高)有り。この為替差損を本来の株や債券収益で補えるか否か? 高金利通貨も円高為替リスク有、新興国ではインドと中国以外は円高リスク有。 為替リスクを敬遠するなら、米ドル資産で攻めるべき。
- アジアの株式市場への株式投資も妙味あり(中国株は2016年から上昇再開)。昨年夏~今年初めの中国株下げを見れば不安になろうが、それでも上昇する。

## 経済ファンダメンタルズ要約

円は対ドルで随分と弱含んだ感があるが、実効為替レートはユーロなどの他通貨に対してはかなり強含んでいるため総合的には過熱感無し。  
金利上昇と株式の頭打ちを結び付ける人が増加したが、金利上昇は景気改善の表れでもあり金融緩和から金融引き締めへ転じた直後に株価が弱気相場に突入は有りえない。 金利上昇がボディーブローの様効いてきて株価調整の契機になるのは数年先の話で、今から狼におびえる必要は無い。

## 当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は、投資判断の参考となる情報提供を目的としてPWM日本証券が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。
- 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。
- 当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。

## 金融商品販売会社の概要

### 【商号等】

PWM日本証券株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第50号

### 【本店所在地】

〒104-0031 東京都中央区京橋二丁目14番1号 兼松ビルディング 9階

### 【加入協会】

日本証券業協会

### 【指定紛争解決機関】

特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

### 【資本金】

30億円

### 【主な事業】

金融商品取引業

### 【設立年月】

平成11年4月

### 【電話番号】

03-3561-4100(代表)